

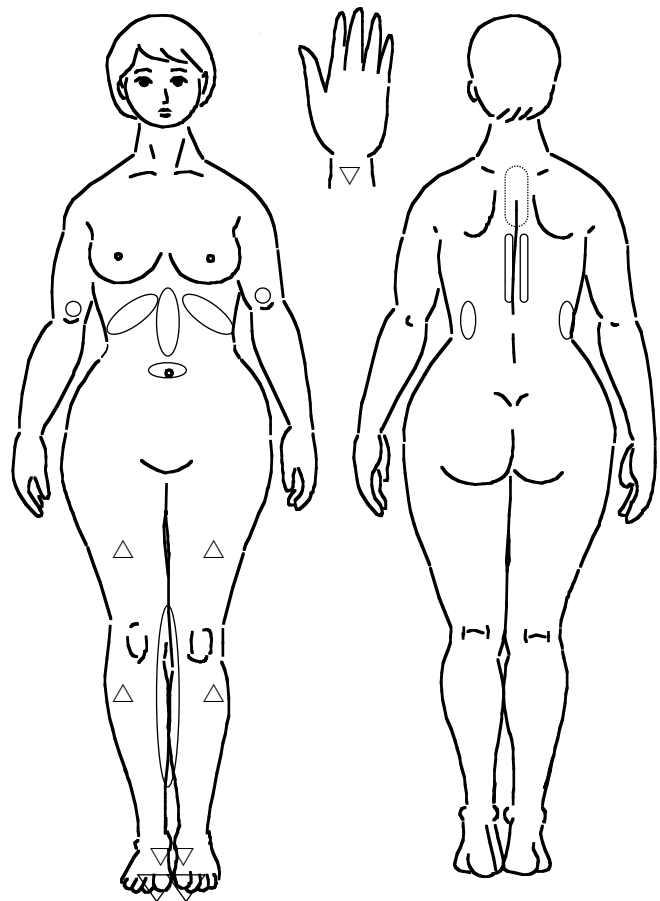
## [17] 陰経(=内)病証 2.中焦：水毒の病 (消化器系)

(1) 基本的に：体の内側の横隔膜から臍に主な症状やツボが出る (消化器系)

- ① 中焦の病は、水毒によることが多く、足の陰経 (特に太陰経) に引きやすい
- ② 横輪切りの兪穴など背中の中にも引きやすい
- ③ 中焦上部には邪気やガスも溜まる (左右差大や心下が硬いと溜まりすぎ→卒中の原因)
- ④ 中焦の水毒から発生した邪気が上焦・表位の病の原因になる例が非常に多い (2000年～)  
(肩腕指のシビれ感、狭心症もどき、慢性頭痛、繊維筋痛症? (の初期症状))
- ⑤ 肩首の水毒は凝り、内耳の水毒は耳鳴り・眩暈、上焦の水毒は咳・痰の原因となる
- ⑥ 下半身の浮腫は、小腹(下焦)や足厥陰経 (少陰経) との関連が深い

(2) ツボが出やすい所

- ① 足の陰経：主に太陰経
  - 1.慢性期：陰陵泉、(大腿部も)
  - 2.急性期：足首より先、商丘、公孫、  
陰白(接触鍼)  
灸：節紋、裏内庭、2指裏
  - 3.どちらにも：地機、漏谷
- ② 足の陽経
  - 1.腹表面の痞り：足陽明～少陽
  - 2.下半身の冷え：足甲3-4間(灸)
- ③ 陽位(背)
  - 1.胸椎7-9-11の華陀経、督脈、1,2行線
  - 2.慢性期：痞根
- ④ 腹部
  - 1.巨闕～中脘、幽門～章門
  - 2.臍まわり(上盲兪)、天枢
- ⑤ その他  
手の陰経：上曲沢(慢)、内関(急)



(3) 手順 (慢性期)

- ① ツボを考慮して慢性期の型 (+灸・灸頭鍼：特に、冷えたり虚したりしている所)
- ② 置鍼+灸・灸頭鍼 (拳先.灸→) (座位→) うつ伏せ→仰向け→手指端灸  
☆：腹の邪毒実するとき、腹への灸は避ける